

数値目標の考え方（素案）

1 現況

- 現計画では、4つのチャレンジを代表する特に重要な指標として「チャレンジ指標」を、政策・施策に紐づいてその進捗を評価する指標として「主要指標」を設定。
- 計画の進捗状況の評価について、毎年度、8月頃までに公表された数値目標の実績値を一つひとつチェックしたうえで施策の方向性等を確認し、計画の推進を図っている。

2 課題

- 数値目標のなかには、その目標とする内容の大きさから県の取組内容が直接反映されるものではない項目や、実績の公表時期が遅い項目、公表周期が毎年度ではない項目などが（特にチャレンジ指標を中心に）あり、そういった項目については毎年度の分析・評価、今後の対応の検討が難しく、スピード感を持った施策展開等につなげられていない。

3 方向性

- 政策・施策の進捗を評価する主要指標について、分析・評価からスピード感を持った施策展開等につなげ、「新しい茨城」づくりに向けた挑戦を続けていくため、目標項目の設定にあたりその適性を以下の4つのポイントにより確認。
 - ① 県の取組による成果が直接反映される（または反映しやすい）項目であること
 - ② 当年度中に当年度実績がある程度把握できること
（当年度中に当年度実績のレビューを行えること）
 - ③ 施策目的に対し適切な成果（アウトカム）を表す項目であること
 - ④ 「新しい茨城」づくりに向け挑戦的な難易度であること
（『知恵を絞りながら』取り組まなければ達成できない難易度であること）
- チャレンジ指標については、今回、数値目標とは別に新たに「いばらき幸福度指標（仮称）」を導入することも踏まえ、廃止。